

## 動物組織からのゲノムDNA抽出

Extraction of genomic DNA from animal tissue

動物組織から簡便、迅速に高純度のゲノムDNAを抽出します。

● **簡単操作**

前処理不要。サンプルのアプライだけで自動的にゲノムDNAを回収します。

● **ユーザーフレンドリー**

遠心分離や有害な有機溶剤が不要です。タンパク質やカオトロピック塩を含まず、高純度のDNAが得られます。

● **高速処理**

最大8サンプルの処理が可能です。抽出から測定まで約25～45分。

● **濃度・純度測定**

吸光度計内臓で核酸の濃度・純度を同時に測定します。(260, 280, 320nm)

### プロトコール

サンプルアプライ

↓ サンプルの溶解・・・・・・・・・・・・（溶解・吸着液）

↓ Genomic DNA吸着・・・・・・・・・・・・（磁性ビーズ）

B/F分離

↓ 非特異的吸着物の除去・・・・・・・・・・・・（洗浄液1）

B/F分離

↓ タンパク質変性剤の除去・・・・・・・・・・・・（洗浄液2）

B/F分離

↓ DNAを磁性ビーズから溶出・・・・・・・・・・・・（溶出液・滅菌水）

B/F分離

↓ 磁性ビーズを除去

↓ ゲノムDNA回収（100μl）

↓ 吸光度測定による濃度及び純度の算出

操作は自動で行います

### プレパック内容物

試薬類は全てプレパックになっています。

プレパック試薬には

①に溶解・吸着液（タンパク質変性剤含有）

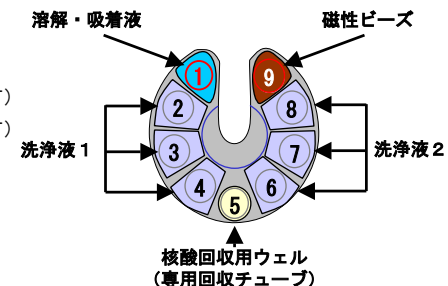
②③④に洗浄液1（タンパク質変性剤含有）

⑥⑦⑧に洗浄液2（エタノール含有）

⑨に磁性ビーズが充填されています。

⑤には回収チューブを装着します。

出荷時には何も入っていません。



### マウス組織からのゲノムDNA抽出の実施例

サ ン プ ル	腎臓
対応サンプル量	組織片を2～5mm程度（ハサミで切る）
使 用 キ ャ ッ ト	MagGenex Genomic DNA用キット
前 処 理	液体窒素処理サンプルを用いる
プ ロ ト コ ー ル	Genomic DNA Extract program（本体に標準インストール）

—目的—

MagGenex PNE-1080及びMagGenex Genomic DNA抽出用キットを利用してマウスの各組織からゲノムDNAを抽出し、収量と純度を吸光度計により測定することを試みます。また、抽出したゲノムDNAの一部をテンプレートとしてPCR反応を行い、標的遺伝子の増幅が可能であることを確認します。

—方法—

マウスの組織はハサミで2～5mm位になるように細かく切り、液体窒素にて凍結させ、乳鉢で粉碎した粉をサンプルとしました。その粉（30 mg）をプレパックの①番に導入しました。

## —結果—

## 1. 吸光度測定の結果と算出した濃度及び純度

A 260	0.3 ~ 0.4
A 280	0.2 ~ 0.3
A 320	0.05 ~ 0.09
濃度 ( $\mu\text{g/ml}$ )	10.0 ~ 15.0
純度 ( $A_{260}-A_{320}$ ) / ( $A_{280}-A_{320}$ )	1.70 ~ 1.90

## 2. PCR反応

テンプレート : マウス腎臓から抽出したDNA溶液

ターゲット : TNF gene

酵素 : A社 Taq DNA polymerase (2.5U)

プライマー : 各0.2  $\mu\text{M}$

dNTPs : 各400  $\mu\text{M}$

反応液量 : 50  $\mu\text{l}$

温度サイクル : 94°C, 5min. → (94°C, 30sec. → 60°C, 30sec. → 72°C, 1min.) × 30cycle → 72°C, 15min.

## —電気泳動結果—

反応液の1/10量 (5  $\mu\text{l}$ ) をアガロースゲル電気泳動により確認しました。

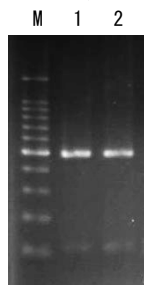


Fig. TNF gene PCR product derived from mouse kidney

M: 100 bp DNA ladder

1: TNF gene PCR product

2: TNF gene PCR product

3% Agarose gel

← 498 bp

## —考察—

MagGenex PNE-1080を用いることで特殊な前処理を必要とせずに、高純度なゲノムDNAの抽出が可能であることが確認されました。また、PCR反応によりターゲットの特異的な増幅が確認されたことから、抽出されたゲノムDNAはテンプレートとして適していると考えられます。

株式会社マルコム

 コスモ・バイオ株式会社